

(人口1,000人当たりの出生数)は8.2となり、出生数及び出生率はともに前年を下回った。

また、合計特殊出生率(その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。)は、第1次ベビーブーム以降急速に低下し、昭和31(1956)年に2.22となった後、しばらくは人口置換水準(人口を長期的に維持するために必要な水準で2.1程度)前後で推移してきたが、50(1975)年に1.91と2.00を下回ると、平成5(1993)年に1.46と1.50を割り込んだ。その後も低下傾向は続き、17(2005)年には1.26と過去最低を記録したが、24(2012)年は1.41となっている。

#### 4 高齢化の社会保障給付費に対する影響

##### (1) 過去最高となった社会保障給付費

国立社会保障・人口問題研究所「平成23年度社会保障費用統計」により、社会保障給付費(年金・医療・福祉その他を合わせた額)全体

についてみると、平成23(2011)年度は107兆4,950億円となり過去最高の水準となった。また、国民所得に占める割合は、昭和45(1970)年度の5.8%から31.0%に上昇し、こちらも過去最高の水準となった(図1-1-11)。

##### (2) 高齢者関係給付費は引き続き増加

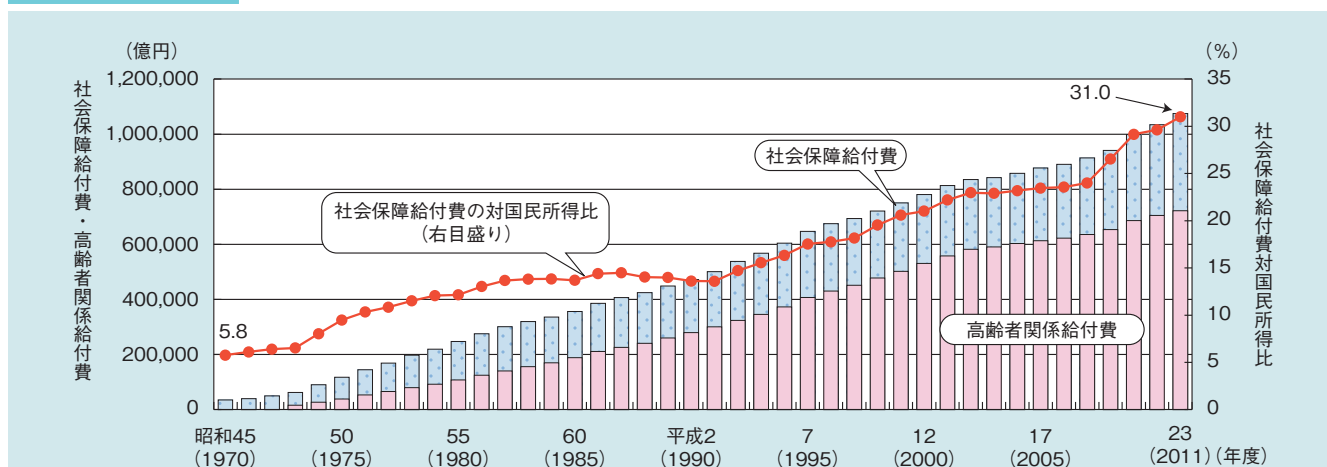
社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費(国立社会保障・人口問題研究所の定義において、年金保険給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせた額)についてみると、平成23(2011)年度は72兆1,940億円となり、前年度の70兆5,160億円から1兆6,780億円増加した。一方、社会保障給付費に占める割合は67.2%で、前年度から0.9ポイント減少となっている。

#### 5 高齢化の国際的動向

##### (1) 今後半世紀で世界の高齢化は急速に進展

平成22(2010)年の世界の総人口は69億1,618万人であり、72(2060)年には99億5,740

図1-1-11 社会保障給付費の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「平成23年度社会保障費用統計」

(注1) 高齢者関係給付費とは、年金保険給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせたもので昭和48年度から集計

(注2) 高齢者医療給付費は、平成19年度までは旧老人保健制度からの医療給付額、平成20年度は後期高齢者医療制度からの医療給付額及び旧老人保健制度からの平成20年3月分の医療給付額等が含まれている。

万人になると見込まれている。

総人口に占める65歳以上の人の割合（高齢化率）は、昭和25（1950）年の5.1%から平成22（2010）年には7.7%に上昇しているが、さらに72（2060）年には17.6%にまで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展することになる（表1-1-12）。

## (2) 我が国は世界のどの国も経験したことのない高齢社会を迎えている

先進諸国の高齢化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、平成17（2005）年には最も高い水準となり、世界のどの国もこれまで経験したことのない高齢社会を迎えている。

また、高齢化の速度について、高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの

所要年数（倍化年数）によって比較すると、フランスが126年、スウェーデンが85年、比較的短いドイツが40年、イギリスが46年であるのに対し、我が国は、昭和45（1970）年に7%を超えると、その24年後の平成6（1994）年には14%に達している。このように、我が国の高齢化は、世界に例をみない速度で進行している。

アジア諸国についてみると、今後、急速に高齢化が進み、特に韓国においては、我が国を上回るスピードで高齢化が進行し、平成17年（2005）に9.3%であったものが72（2060）年には37.0%にまで達すると見込まれている。

地域別に高齢化率の今後の推移をみると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれている（図1-1-13）。

表1-1-12 世界人口の動向等

	1950年（昭和25年）	2010年（平成22年）	2060年（平成72年）
総人口	2,525,779 千人	6,916,183 千人	9,957,399 千人
65歳以上人口	128,427 千人	530,507 千人	1,748,171 千人
先進地域	62,659 千人	199,437 千人	345,128 千人
開発途上地域	65,768 千人	331,069 千人	1,403,043 千人
65歳以上人口比率	5.1 %	7.7 %	17.6 %
先進地域	7.7 %	16.1 %	26.5 %
開発途上地域	3.8 %	5.8 %	16.2 %
平均寿命（男性）	45.9 年	66.5 年	75.1 年
同（女性）	47.9 年	71.0 年	79.5 年
合計特殊出生率	5.0	2.5	2.2

資料：UN, World Population Prospects : The 2012 Revision

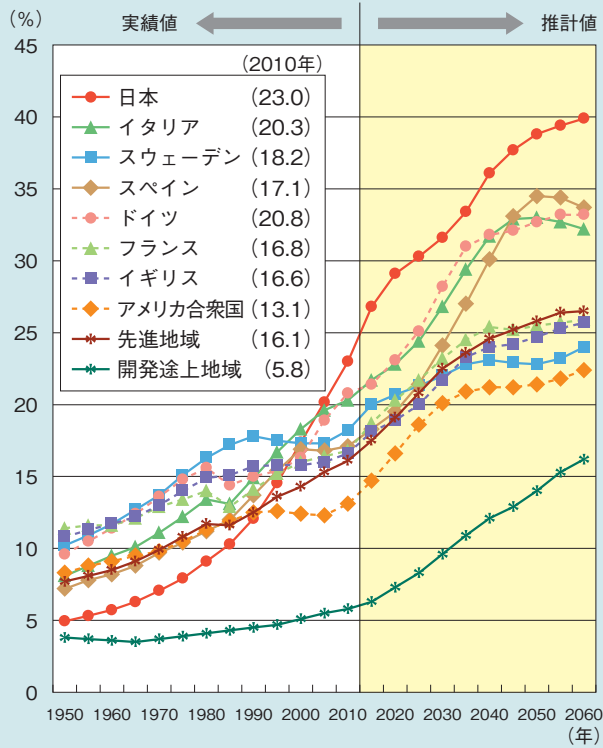
(注1) 平均寿命及び合計特殊出生率は、1950-1955年、2005-2010年、2055-2060年

(注2) 先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

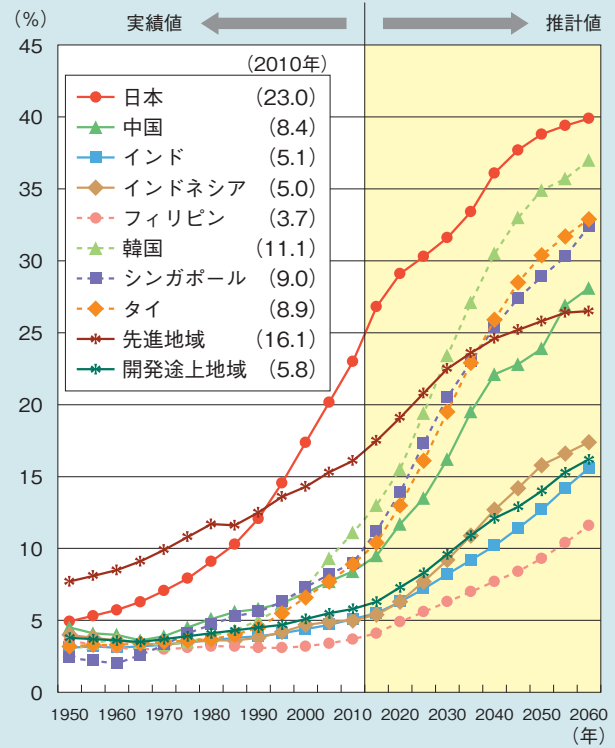
開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

図1-1-13 世界の高齢化率の推移

1. 欧米



2. アジア



資料：UN, World Population Prospects: The 2012 Revision

ただし日本は、2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。